

足立区議会議員 だ だ 太 郎 様

足立区議会議員 9 番 太田 せいいち 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいのので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
1 衛生行政	I. 健康施策並びに病との共生について 医学や薬剤の進歩とともに、病を患っても生活の質を維持したまま社会生活を送ることができるようになってきている。厚生労働省が実施した「患者調査」によると、令和5年10月時点で全国の医療施設で受療した推計患者数は入院で117万人強、通院で727万人、特に在宅医療を受けた患者は過去最高の24万人程度となっている。 1. 糖尿病対策について ①糖尿病一人当たりの医療費が23区で上位に位置しており、区民の健康寿命の増進を図るため、区は糖尿病対策を健康づくり施策の重点項目として糖尿病対策アクションプランを立てて取り組んで来た。これまでの取り組みの成果と課題について伺う。 また糖尿病の重症化や腎機能の低下の恐れがある人を対象に、かかりつけ医の了承のもと、保健師・管理栄養士のアドバイスを受け生活習慣の改善を目指す「糖尿病性腎症重症化予防事業」を実施している。6カ月間に及ぶ保健指導プログラムでは、保健師等が直接の面談と電話を通じて改善のアドバイスなどを実施しているが、面談の会場が区役所のみとなっている。面談会場を増やすとともに、オンラインでの保健指導なども導入してより利用しやすい改善を図ってはどうか、併せて伺う。 ②糖尿病予防には継続的な運動が効果的である。誰でもどこでも簡単に継続できる運動として考案された「インターバル速歩」が注目されている。インターバル速歩とは「さっさか歩き」と「ゆっくり歩
	9月9日 午前・午後 9時30分受付 質問時間 20分

	9 番 太田 せいいち
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	き」を数分間ずつ交互に繰り返すウォーキング法で、体力の向上と合わせて、高血圧・肥満などの生活習慣病の改善効果が期待される。区民が手軽に継続できる運動の一つとして、日常生活の中で取り入れられるよう区のHPなどを活用して紹介してはどうか伺う。 ③近年若年層でペットボトル症候群が懸念される。スポーツ飲料などの甘いペットボトル飲料には多くのブドウ糖が含まれており、飲みすぎると血糖値の上昇を招き、糖尿病の発症につながると言われている。特に子どもは大人よりも体重が軽いため、少ない量の糖でも高血糖になりやすく注意が必要である。小・中学生向けにペットボトル症候群の危険性について周知すべきと考えるが伺う。 2. がん検診等の拡充について ①区は20歳から5歳刻みで対象者を設定し「がん検診・成人歯科健診」を推進してきた。区民のうち職場等で実施している検診も含めて、何らかのがん検診を受けている区民の割合の推移はどうか。 また平成30年度から大腸がん検診と特定健診を同時に受診できる仕組みを整備したことにより、受診率を向上させた実績がある。その他のがん検診についても、足立区医師会とも連携しながら特定健診と同時に受けられるようにしてはどうか。 さらに、申込に際しては、受けたいがん検診を選択してもらう形式が一般的だが、逆に受けたくない検診を選んでもらう方式をとる方が受診率向上の可能性があるとされている。がん検診の受診率向上に向けて、区民ががん検診を受けたいくなるような取り組みをさらに強化すべきと考えるが、併せて伺う。 ②八王子市では特定健診と大腸がん検診のセット受診を促すべく、特定健診の前年度受診者に対して大腸がん検査キットを同封するという施策を実施した。以前までは特定健診受診者のうち、約38%が大腸がん検診を受けていたが、検査キットの同封効果により同時受診率は66%まで向上した。当区でもこうした取り組みを検討してはどうか伺う。 ③中学生などを対象に、胃がんや胃潰瘍の原因となるヘリコバクター・ピロリ菌の感染を独自に調べる自治体が増えている。ピロリ菌

	9 番 太田 せいいち
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	は乳幼児期に家族から感染することが主な原因であり、感染後の炎症が起こっている期間が長いほど、萎縮性胃炎になるリスクが高くなるため、早期の発見が必要といわれている。当区では40歳から74歳までの区民を対象にペプシノゲン検査及びヘリコバクター・ピロリ抗体検査を実施しているが、医師会の意見も聴きながら、例えば20歳など節目の年齢でも受診できるよう若年層への拡大を検討してはどうか、区の見解を伺う。 ④子宮頸がん検診は、当区では20歳以上の区民が500円で受診でき、30歳の区民には無料クーポン券を発送しているが、受診率は20％程度となっている。国は昨年度から各自治体の判断でHPV検査を公的検診として導入できるとしており、厚労省の調査によるとすでに実施している横浜市などの4自治体に加え337の自治体で導入が予定されている。当区でも国の方針を受けて情報収集を実施しているとのことだが、導入に向けた課題は何か。 またHPV検査では、8割から9割が陰性になるといわれており、その場合次の検査は5年後で済むため、受診者の負担が大きく軽減される。先行して実施を決めた横浜市では、陽性者への追加検査を案内するなどのフォローアップの体制を整備するのに1年程度要したとのことで導入には時間がかかることが予想される。受診者へのメリットも大きく、子宮頸がん発症のリスク保持者の早期発見につながる検診であるので、当区も今から前向きに検討を進めるべきと思うが、併せて伺う。 3. がん患者とその家族を支える取り組みについて ①がんに罹患すると、告知されたその時から患者と家族は治療費についてや、仕事との両立についての悩みなど様々な情報が必要になる。文京区ではがん患者が活用できる区内の資源について、一覧にまとめた「文京区がんサポートあんしんガイド」を作成して、HPなどで情報提供している。当区でも様々な支援制度などの情報を集約した「(仮称)がんサポートポータルサイト」などを作り、必要となる情報を整理して区民に分かりやすく提供すべきと考えるが伺う。 ②がん患者や家族にとって、同じ境遇に置かれた人との交流や情報交

	9 番 太田 せいいち
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	換が、将来不安を軽減することに繋がる。すでに区内には乳がんの当事者・経験者の集まりである「たんぽぽの会」があり、定期的に親睦会や学習会を開催している。乳がんに限らず他のがん患者・家族が情報交換したり支えあう場も必要と考えるが区の見解を伺う。 ③乳がんの啓発活動として「ピンクリボンあだち」を毎年開催して来たが、今年は土・日の二日間に期間を拡大して、従来の乳がんの啓発に加え「がんとの共生」をテーマに講演会などを実施する予定と聞く。広く区民にがんとの共生について考えてもらう良い機会であり、特に若い女性向けに LINE やインスタグラムも活用するなど丁寧に周知すべきだがどうか。 また同日参加できなかった区民に向けて、講演会の内容を動画にして発信してはどうか、併せて伺う。 ④厚労省の調査によると、両親や兄弟などががんに罹患した14歳以下の子どもの31%が心的外傷ストレスを経験したり、集団の中で孤立しやすい傾向にあることが明らかになっている。こうした子どもたちに向けたがん診療におけるチャイルドサポートの重要性についても、講演会などを実施し啓発の機会を設けてはどうか伺う。 4. 医療的ケアを必要とする方の社会生活支援について ①厚労省は労働施策総合推進法を改正し、来年4月より事業場において、労働者の「治療と仕事の両立」を支援するため必要な措置を講じることを努力義務とした。医療的ケアを必要とする人が就労するには、事業者に求められる様々な合理的配慮等を知ってもらう必要がある。企業の取り組み事例などをまとめた「治療と仕事の両立支援ナビ」を区のHPにも掲載し、区内の企業や医療機関などに周知すべきと考えるが伺う。 ②医療的ケアを必要とする人の生活上の大きな不安の一つに災害への備えがある。平時の備えとして実際の移動を伴う避難訓練を実施することが大切で、区は昨年8月医療的ケア児を含む3名の人と、居住地から福祉避難所までの水害を想定した移送訓練を実施した。今後どのように、移動を伴う避難訓練を進める計画なのか伺う。 また発災時には、電気を使う医療器具を必要とする区民にとっ

	9 番 太田 せいいち
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
2 都市建設行政	て、避難所における電源は不可欠である。区は全ての福祉避難所において停電時の電力確保を進めていると聞くが、今後どのように進めていくのか併せて伺う。 Ⅱ．区北西部の課題について 1．竹の塚地域について ①本年2月竹ノ塚駅西口駅前交通広場が開設し、車両やタクシーの乗降場が新たに設けられ、区民の利便性が大きく向上した。区は東・西駅前広場及びけやき大通り周辺を「みどりの重点エリア」として整備するとしているが、けやき大通りなどがある東口と比較して、現在の西口駅前交通広場には緑や花が少ない印象がある。今後、西口駅前交通広場では更に緑や花を増やすべきと考えるがどうか。 またベンチを設置したり、キッチンカーを入れるようにするなど広くなったロータリーのスペースを有効活用し、駅西側の更なる活性化を図るべきと考えるが、併せて伺う。 ②区は綾瀬に続いて竹の塚で「ぐるぐる博」を開催し、地域のチャレンジを後押しするコミュニティの創出に向けた準備を進めてきた。現在コミュニティの拠点となる場所として、駅高架下にトレーラーハウスを導入する計画で、地域の期待も高まっている。そこで新たなコミュニティ創出に向けた地域の機運を更に高めるためにも「あやセンター ぐるぐる」のような地域に親しまれる拠点の名称を、地域住民から募集するなどして選定してはどうか。 また、新たなコミュニティ創出には、地域を盛り上げようとする人材の支援も必要である。区はトレーラーハウスに加えキッチントレーラーも導入し、新たに飲食店の開店を目指す人へチャレンジショップとして利用してもらう方針と聞く。そうした区民の互いの交流の機会を設けて、経営ノウハウも共有できるような工夫もすべきと考えるが、併せて伺う。 ③赤山街道の朝の通勤時間帯には、伊興前沼交差点から西口西友前付近まで歩行者や自転車で通行する区民が大変多くなっている。車道の朝の時間はバス優先になっているため、多くの自転車が途中で歩

	9 番 太田 せいいち
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
3 危機管理行政	道に乗り入れており、通行の安全確保が課題であると考ええる。将来的に西口交通駅前広場にバス停が移動することで改善する見込みだが、実態を調査の上、安全対策を実施すべきと考えるが伺う。 2. 防災公園としての舎人公園の更なる活用について ①舎人公園は、発災時には避難場所となるほか、様々な災害対策設備を有する都指定の防災公園となっている。災害の情報を発信するデジタルサイネージを設置しているのに加え、かまどベンチやマンホールトイレなども設置されており、区民にとって貴重な災害対策設備を備えているが、現状そうした情報はあまり知られていない。都や周辺の町会と連携し、舎人公園で実施される防災フェスなどのイベントの機会を通じて、地域住民に災害設備の使い方などを知ってもらう機会を創出すべきと考えるが伺う。 ②近年楽しみながら防災のことを学ぶ取り組みとして防災キャンプが注目されている。屋外でのテント設営や炊事などを通じて、災害時に必要となるスキルを親子で学ぶことができる。舎人公園はキャンプやバーベキューが出来る公園でもあり、舎人公園において災害時のスキルを楽しく学べるキャンプ防災講座などを企画してはどうか伺う。
4 都市建設行政	3. 保木間堀親水水路について 区は平成元年に保木間堀親水水路を含む伊興寺町地区を景観形成のモデル地区に指定し、地区の住民で組織する「東伊興地区景観まちづくりを考える会」と共に、都内でも有数の寺町として歴史・文化を尊重した景観づくりを進めてきた。はんの木橋から伊興白旗の交差点まで、1 KMほど車道を挟んで両側の歩道に石畳が続いており、豊かな水源と歴史・風情を感じられる景観の醸成に寄与している。一方で長く続く石畳の歩道は、石の表面の凹凸や石と石の間に溝があり、歩行器や杖を使う高齢者から歩きにくい、つまずいてしまったなどの声が挙がっている。区は第二次足立区景観計画で保木間堀親水水路について「利用者の安全性と快適性を重視」した整備方針を立てているが、景観の維持と安全性の両立に向けてどう取り組んでいくのか伺う。

	9 番 太田 せいいち
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	また歩道が一部狭くなっており、自転車が通る際には通行の危険性が高くなっている。安全対策が必要と考えるが、併せて伺う。 4. 毛長川沿いの歩道の整備について 毛長川は区北部の草加市との境目付近を流れており、谷塚橋より下流の部分では歩道が広く整備されている。一方谷塚橋より上流部分の古千谷本町から舎人三丁目に至るエリアにも、細いながらも川沿いの小さな土手に歩道があり、地域住民の散歩道として親しまれている。川沿いを歩くために数段の階段と手すりが一定の間隔で設置されている土手に上がる必要があるが、階段を降りる際に使うには、手すりが低く転倒の危険性があり長年の課題となっている。利用者が安全に歩行できるよう手すりを高くするなど改善すべきと考えるが伺う。 また、この川沿いの地域は都と区の管理エリアが混在しており、補修などの対応は都と区の関係者で連携を取り合って対応をしている。今後は個々の補修等の対応に加え、利用者にとっての歩きやすさや快適性などを踏まえた一体的な整備を進められるよう、より都との連携を強化し地域住民の要望などを聴きながら川沿いの歩道の整備・改善を進めるべきと考えるが見解を伺う。